学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第三小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係 者評 価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営		学校は、学校教育目標達成に向けて、全 教職員で組織的に取 り組んでいる。 (※夏季株業期間の変更に伴う教育課程 編成の工夫を含む)	А	HPの定期的な更新、さくら連絡網での配信等での情報発信は基より、コロナ禍ではあるが、感染対策を行いながら、11月の土曜参観を含めた1週間の学校公開・運動会での無制限参観等の取り組みが評価され、保護者の最高評価をいただいた項目となった。	А	学校教育目標などHPを活用し情報の共有化を図っており、組織的に取り組んでいる。学校協議会委員として学校へ出向くことが多くなり、身近に感じる。 さくら連絡網の配信は楽しみである。 運動会は最高でした。
		学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	В	計画的に避難訓練を実施し、「自分の命は自分で守る」児童の危機管理能力の育成で前年度比で大きく評価を伸ばした。養護教諭・担任を中心にさくら連絡網を通じての毎朝の健康観察も習慣化されてきた。慣れてきた中での家庭からの送信忘れ対策が今後の課題である。	Α	計画的に避難訓練を実施している。また防犯カメラの設置や教室のトランシーバーの配置により危機管理体制が整っている。教職員が協力し、対応できている。健康・安全、大切な命について体制を整えられている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員 の指導により、基礎 学力を身に付けてい る。	В	教務主任・国語主任・算数主任を中心に、週1回のステップアップタイムの取組を学校として統一化を図り、計画的に学力を伸ばしてきている。5・6年の教科担任制度の導入、3・4年生の算数科におけるTT・少人数指導で基礎学力を伸ばす授業を展開してきた。情報主任を中心に、授業力向上のためのICTの有効活用の研修・実践を行い効果を上げた。	Α	ステップアップタイムの実施や少人数指導などで、基礎学力を伸ばす取組を展開しており、 保護者もわが子の基礎学力の習得をしている と評価があった。実態はわかりませんが、児 童は先生方の熱意に応えて欲しい。個人差が 大きい。
	4	学校は、学力向上を めざし、児童生徒の 実態に基づいて授 業改善に努めてい る。	А	学力向上推進委員長を中心に、児童の実態を明らかにし策を講じるため、本校独自の学力テスト(三小学カテスト)を作成し、1年を除く全学年で実施した。全学調・県学調・三小学カテストの結果を各学年で分析し、学年で策を練り、授業やステップアップタイムで学力を向上させてきた。全学調も全国平均を上回ったのは成果である。	Α	国や県の学力学習状況調査のほか、三小独自の学力テストを実施して児童の個々の実態に基づいた授業の実施に努めている。先生方の教材準備等大変だと思います。
規律ある態度の育成		児童生徒は、生活の ルールに基づき、発 達段階に応じた「規 律ある態度」を身に 付けている。	В	毎月の生徒指導部会で各学年の報告と今後の指導や 支援を話し合い、実践してきた。黙々清掃に学校と して力を入れ、指導する中で今年度大きな定着が図 られた。懸命に掃除する姿に成長を感じることがで きた。児童会活動で浸透が図られている気持ちの良 い挨拶は三小の強みである。	Α	全校朝会での生活目標の設定と評価・改善や児童会のあいさつ週間の取組などにより基礎的な生活習慣の確立を図っている。元気に挨拶ができている。
	6	学校は、児童生徒の 実態把握に基づき、 規律ある態度の指 導の工夫・改善に努 めている。	А	児童会を中心としたあいさつ週間の毎月の取組、生徒指導主任を中心とした廊下歩行・くつピタ(かかと揃え)・なかよし宣言等の取組を行い、成果を上げてきた。自分を見つめなおす機会を設定しながら基本的な生活習慣の確立を図ってきた。	Α	あいさつ運動に参加して、気持ちの良い挨拶ができていた。
健康・体	7	児童生徒は、体育の 授業や運動部活動、 外遊び等の運動に 意欲的に取り組んで いる。	В	児童の自己評価が80%を超えたものの、他の項目と比べ、最低評価となった項目である。コロナの影響もあり、運動離れが年々深刻になってきている。体育の宿題や外遊びの奨励、体育授業の工夫改善で運動好きな児童の育成に励んできた。校内研修の研究授業の授業分析・小グループでの討論・指導者の招聘で体育授業改善に努めてきた。	Α	学校は体育の授業や外遊び等の運動に 取り組んでいるもののコロナの影響により 運動の機会は減少傾向のままと思われ る。
力向上	ŏ	学校は、児童生徒の 体力を高めるため、 意図的に向上策を 講じている。	В	運動の得意な児童の指標であるA+B+Cの割合が下がっていることから、校内研修で本年度から体育科の研究を行ってきている。アンケート!児童・家庭!の作成・実施・分析、「運動の楽しさや喜びを味わい、粘り強く取り組むことができる体育学習の充実」を校内研修のテーマとし授業改善に努めてきた。全校で取り組む三小体操の開発と浸透で児童の体力向上に励んできた。	Α	学校ではフレッシュタイムを実施して体力 向上を図っており、体カアップカードを配 付して家庭での体力向上にも努めている。
連携		学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	В	コロナ禍ではあるが、積極的にゲストティーチャーを招き、体験的な学習を児童に提供した。コマ体験、劇団、社会福祉協議会、農協、税務署等1年から6年に至るまで様々な年齢・職種の方にご指導いただき、児童の意欲化を図ってきた。五中見学、保育園との交流等、子とも同士の交流も行ってきた。PTAの方々にも多大なご支援を頂き児童を健全育成してきた。		三小はコミュニティースクールとして令和3年度から地域と共にある学校づくりを推進しており、地域や保護者との連携が図られ、学校運営の改善や児童の健全育成が期待できる。いろいろな取組が行われている。ふれあい祭りも地域と協力し楽しめたのも良かった。ボールを自由に使える公園が少ないため、学校で行った球技を帰宅後友と行うことができない。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	В	教育相談主任を中心に、保護者と担任との話合いができるように教育相談日を設定したり、県スクールカウンセラーとの面談を積極的に呼びかけたりして、児童理解に努めてきた。五中校区さわかか相談室、きこえとことばの教室、通級指導教室、子ども相談室とも連携しながら教育相談にあたってきた。安全主任を中心に地域と連携し、一斉下校や引渡訓練を実施してきた。	В	学校・保護者と連携し合っている様子が見られる。一方で急激に住宅が増え今までの方法では対応が難しいときもある。登下校に関し、付き添いがいる場合は大丈夫なのだが、いない場合に道路に広がったり、ふざけている児童がいて危ないときがある。保護者の方の一部はもっと学校に協力的でよいのでは。各家庭の温度差がある。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入 Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、 B:2.6以上、 C:2.0以上、 D:2.0未満